

## SR-X324T1 V01.05 変更内容一覧

### □機能追加

No.	項目	内容
1	縮退機能改善	sysdown harderrコマンドにて装置異常(温度異常/FAN異常/その他)発生時の装置動作を選択可能としました。
2	Web画面改善	WWWブラウザにて本装置の表示メニューの[装置情報]で画面表示されるインタフェース情報の「[!]エラー/廃棄フレームが確認されたポート」表示を選択可能としました。また、表示メニューで[再読込]および[初期化]操作を可能としました。
3	リンクダウンリレー機能改善	バックアップグループ単位でリンクダウンリレー機能を動作可能としました。バックアップグループのmasterポートおよびbackupポートのどちらも稼働できない状態となった場合にリンクダウンリレーが発動します。

### □修正内容

No.	影響範囲	内容
1	V01.01~V01.02	etherポートのLinkUpトラップ(SNMPv2-TRAP)通知時、ifOperStatus値がdown(2)と通知される。
2	V01.01~V01.02	通信中にetherコマンド設定の動的定義変更をおこなうと、CHECKランプが橙点灯し、エラーログにerror code [a7000990]が出力され装置再起動まで通信を再開できない場合がある。
3	V01.01~V01.02	リンクアグリゲーションを構成するリンクに関するLinkUp/LinkDownトラップに含まれるifOperStatusの値が正しくない。
4	V01.01~V01.02	LLDP情報に関連する構成定義コマンドにおいて、設定変更してもLLDP情報が更新されない場合がある。
5	V01.01~V01.02	DUMPスイッチ押下による外部メディアへファイル転送中に、WWWブラウザから本装置の設定処理を行うと装置がシステムダウンする場合がある。
6	V01.01~V01.02	IGMPスヌープ機能を動的定義変更にて有効にした場合、Querier動作モードが無効設定にも関わらず有効となる場合がある。
7	V01.01~V01.02	diffコマンドでstartup-configとの比較を行うと、差異がないのに差異が表示されたり、場合によってはシステムダウンする場合がある。
8	V01.01~V01.02	リンクアグリゲーションインタフェースが構成定義矛盾によって動作不可状態のままになっていると、そのインタフェースに対するifIndexおよびifPhysAddressのMIB値について本装置が誤った情報で応答する場合がある。
9	V01.01~V01.02	コマンド実行履歴のシステムログ内容に不正な文字列“env”が混入される場合がある。
10	V01.01~V01.02	先頭以外のフラグメントパケットがフィルタリング機能により不正に破棄される場合がある。
11	V01.01~V01.02	telnetでログイン中にコンソールでログインするとtelnetが強制切断されるが、それ以降コンソールのautologout機能およびCTRL+Cによるコマンド中断機能が動作しない
12	V01.01~V01.02	外部メディアスタート機能が無効設定にも関わらず動作する場合がある。
13	V01.01~V01.02	LLDPの管理アドレス情報(Management Address)として、設定したSNMPエージェントアドレスが表示されない。
14	V01.01~V01.02	WWWブラウザの設定メニューの“VLAN設定”画面を表示する際、本装置宛での通信が遅延する場合がある。
15	V01.01~V01.02	WWWブラウザにて本装置の設定メニューの“基本情報”画面の“時刻の設定”にて、「自動で指定のNTP/SNTPサーバと同期」を設定した状態から「時刻を設定しない」に変更できない。
16	V01.01~V01.02	ルータからプレフィックス情報を含むRAを受信しても、そのプレフィックス情報を破棄する場合がある。